

## 第4回庄原市長期総合計画審議会 会議録（摘録）

1. 開催日時 令和7年12月15日（月） 15：30～
2. 開催場所 庄原市役所 本庁舎5階 第1委員会室
3. 出席委員  
上水流 久彦 委員 ・ 児島 茂春 委員 ・ 名越 千晴 委員  
板倉 一弥 委員 ・ 伊藤 郁夫 委員 ・ 上田 正之 委員  
大原 一展 委員 ・ 林 充 委員 ・ 八野 祐次 委員  
今田 貴子 委員 ・ 早川 太 委員 ・ 川崎 弘子 委員  
廣澤 伸高 委員 ・ 東 泰治 委員 ・ 田邊 良三 委員  
織田 みね子 委員 ・ 表 良則 委員 ・ 福元 奈津 委員  
島津 宏 委員 ・ 垣内 絵理 委員 ・ 水戸 美代子 委員
4. 欠席委員 土井 幹雄 委員 ・ 岡崎 輝子 委員
5. 出席職員  
企画振興部長 足羽 幸宏  
企画振興部企画課長 田部 伸宏  
企画課企画調整係長 安藤 秀明  
企画課企画調整係 山上 翔大
6. 傍聴者 5名
7. 会議次第 別紙のとおり
8. 会議経過 別紙のとおり

## 第4回 庄原市長期総合計画審議会 次第

令和7年12月15日（月）15：30～  
庄原市役所 本庁舎5階 第1委員会室

1. 開会

2. 会長挨拶

3. 議事

(1) 報告事項

(2) 第3期庄原市長期総合計画（素案）について

(3) パブリックコメント手続について

4. 意見交換

5. その他

(1) 今後のスケジュール（予定）

6. 閉会

## 会議経過

### 1. 開会

### 2. 会長挨拶

年末の忙しいところ、集まりいただき感謝する。今日は、それぞれの専門部会での議論をまとめ、最初の案として提示している。それらを議論し、最終的にパブリックコメントに出せるものに固めていきたい。概ね、17時には終わりたいと考えているが、時間が許す限り、皆様から色々な意見を賜ればと考えているので、どうぞよろしく願います。

### 3. 議事

- (1) 報告事項
- (2) 第3期庄原市長期総合計画（素案）について
- (3) パブリックコメント手続きについて

資料により事務局が説明

### 4. 意見交換

会 長：達成を示す指標は、調整中であり、パブリックコメント時には出ないとの認識でよいか。

事務局：指標については、委員の皆様による最終の審議会を開催した際に、目標数値を入れたものを審議し、最終的に答申としたいと考えている。そのため、次回の審議会において報告する。

会 長：計画書 P41 のレーダーチャートは確定したものか。

事務局：現在策定中の計画は、農業や林業である。福祉計画は、アンケートを取っている状況で、その結果によって重要視する点があれば、3月もしくは来年度の計画として完成させる。しかし、各個別計画から持ってきているので、大きく変わることはないと考えている。

会 長：KGI や指標についての意見があれば出していただきたい。また、今日は、文章

に関しても意見をいただき、パブリックコメントの原案としてまとめたいと考えている。

報告事項の福祉・教育部会では、安心して子どもが健やかに育つ環境をつくるために目的に応じた表現を検討していきたいとあるが、この点は、具体的に変更をしているのか。

事務局：計画書 P46「施策領域 1 子ども・子育て」の「めざす姿」の 2 段落目、「子どもや若者の今とこれからの最善の利益に資するよう、子ども・若者、子育て当事者と対話しながらライフステージに応じて切れ目なく心身ともに健やかに過ごせるように支援していく」とあり、その下の課題では、これまで、質の高い教育が受けられるとされていたが、「希望する人が希望する保育所などにおいて、子どもたちの安心と成長を支える保育と学びの提供を受けられる体制を充実させる必要がある」という表現に変更している。また、「施策（1-3）子どもの権利保護」では、教育委員会や児童福祉課等の視点で総合的に判断し、「子どもたちの孤立を防ぎ、虐待やヤングケアラーなどを未然に防止する」と具体的な言葉を入れている。「様々な事情により支援を要する子ども」については、子どもたちの権利は守られるべきとの視点から、様々な事情により支援が必要な子どもは、特に子どもの権利保護の対象となるように強く記載をしている。計画書 P48「施策領域 2 福祉・介護」の「めざす姿」の 3 段落目に、「さらに、地域社会の多様な主体が参画～」とあり、今まで、自助・共助・公助の 3 つ施策体系を基本とした支え合いとしていたが、地域での支え合いを地域の人たちにも認識してもらうとの意味合いを込めて、互助を加えている。順番については国の方針に基づいて整理をしたいと考えている。計画書 P50「施策領域 3 ウェルネス 施策（3-2）生きがいくりの促進」では、担当課と調整し「ボランティア活動など地域に貢献する市民の活動の場の充実」という表現を入れている。いただいた意見をもとに、以上の修正を行っている。

会長：それでは皆様より、具体的な文言等について意見を伺いたい。

委員：計画書 P37「安心な暮らしの充実」において、「75 歳以上の高齢者の内「交通手段がないため外出できなかったことがよくある人」の割合」を KGI 指標にした理由を説明願う。子どもたちも交通に関して困っており、市で様々な講座が開催されても保護者の送迎がないと参加できない状況が発生している。

事務局：指標については、細かく設けることもできるが、現在、地域交通計画の再編を行っているところで、高齢者の免許返納が課題として挙がっており、交通手段が

ないために病院に行くことができない状況もありうると考えている。子どもの交通手段も重要な問題と認識しているが、75歳以上の高齢者の交通手段については地域交通計画における重要指標のひとつとなっているため、こちらを選定した。子どもたちの交通手段については、地域公共交通へ反映をしていければ、と考えている。

会 長：施策のKGI指標が5つと限られているため、何を指標にしていくのが議論となるのではないかと考える。子どもに関しては、子育てのしやすさが、合計特殊出生率に反映されるのではないかと考えている。一方で、高齢者の問題である要支援・要介護については、高齢に加え、身体障害者も含まれると考えている。さらに、防災の指標があり、子ども・子育ての指標があり、それら全体を市民の幸福度で測っているものと理解している。

計画書 P41 の KGI 指標に、「県立広島大学庄原キャンパス市民公開講座 1 回あたりの定員に占める受講者数の割合」とあるが、この講座は年 2 回の開催に限られた人しか参加しておらず、果たしてこの指標で良いのかと感じている。この指標を設定いただくことはありがたいが、KGI としては再考が必要ではないか。

事務局：庄原市として、今後の県立広島大との連携は、重要なポイントと考えている。学びたいとの意識がある市民に対し、リカレント教育やリスキングの視点から、どのような指標が適切かを考えた場合、担当の生涯学習課では、学びたいと思う人は市民公開講座に必ず参加するので、この 1 回あたりの定員に対する受講者の数が指標としてふさわしいと判断した。

会 長：指標とするのであれば、講座内容について考えた方がよい。過去には、宮島について学ぶ講座があり、市民の関心は高かった。リカレントとの視点でみて、教養の高いリカレント教育につながる講座となるように県立大学にリクエストしてほしい。

委 員：計画書 P31 図表「市民が考える「10 年後の庄原市の姿」のキーワード」に、「子ども」と「子供」、2つの表記が混在しているが意図があるのか。また、色分けに意図があるのか。

事務局：これは、AI テキストマイニングという手法でまとめられており、書かれた言葉がそのまま表記されている。文字の大きさ、色で名詞、動詞、形容詞を分けている。キーワードとして見ていただければ良いと考える。

委員：KGI の説明が、用語解説にあったほうがよいと思う。

事務局：KGI や KPI の用語についても説明を入れるようにする。

委員：パブリックコメントに関して危惧していることは、ページ数や内容が多く、どのように第3期庄原市長期総合計画を周知、公表をしていくのかということである。方法によっては、周知を行っても理解が難しく、必要な意見が返ってこないのではないかと思う。私の経験によれば、国は、10年に1度学習指導要領を改訂する場合に、論点整理として概要版を示している。パブリックコメントではないが、教育現場ではこの概要版をしっかりと読み、実施した結果について意見交換を行っていた。同様に10年を区切りとするこの長期総合計画でも、論点整理とまでは言わないが、分かりやすい概要版を示し、対象者に周知するなどの多くのコメントを得るための工夫をすべきだと考える。パブリックコメントを実施したという事実だけでは意味がないと考える。

事務局：前回のパブリックコメントでは、7人から回答があった。パブリックコメントには、このまま出すのではなく、要点をまとめたものも合わせて出すことを考えている。タイトな日程ではあるが、できる限り努力する。

会長：要点だけでも整理して、もっと詳しく見たいという人のための導きになれば良いと考える。

委員：パブリックコメントの時間と時期が厳しいと感じる。年末年始でもあり、また冬休みで子どもが家にいるので、ゆっくり読込める人がどれくらいいるのかと思う。パブリックコメントを集めたいという熱意が伝わるように YouTube で説明を上げたり、告知放送などを数回行ったりしてはどうか。また、総合計画の素案は紙媒体で見ることにはできるのか、もしくはウェブ上での閲覧に限られるのか。

事務局：時間と時期の問題も含め、できる限り努力をしていきたい。パブリックコメント用の資料は、デジタルデータだけでなく、支所用も含めて製本したものを用意する予定である。

会長：用語解説については、市が発行するものであるから、剽窃になっていないかを検証いただきたい。もし、他から引用した用語を用いるのであれば、出典を明記

するようお願いする。用語の名称と説明がマッチングしていないところが散見されるため、確認願う。

計画書 P66「施策領域 13 人口減少への適応」の「課題」の中に、本市にとって貴重な若者が学ぶ高等教育機関として県立高校が含まれている表現になっているが、県立高校は中等教育機関であり、高等教育機関ではない。県立高校を入れることは問題ないとするが、表現は検討いただきたい。

計画書 P72「施策領域 16 グローバル人材の活躍」において、指標名が育成就労制度による定着人数とあるが、特定技能ではなく、育成就労とした意図があるのか。育成就労は5年経過すると特定技能に移行する。今後、育成就労は、他へ移動しやすくなるため、育成就労を残したいという意図からの指標なのか、特定技能は永住可能ということも含めて、考慮した結果の指標であるのかという点が気になる。

計画書 P65「施策領域 12 産学官連携」の「達成をめざす指標」が、「新たなソーシャルビジネスが生まれた数」となっているが、ソーシャルビジネスに限定した理由があるのか。一方、計画書 P62「施策領域 10 商工業」のところには、製造業付加価値額、創業件数の指標があり、それらとの対比を示しているのか。産学官連携で重要なことは、裾野であり、裾野を広くするとは産官学による話し合いや議論を活発化するということであり、その状況をカウントできたらよいと考える。例えば、庄原市が助成する事業について、報告書を作成する際に高等教育機関や研究機関と連携した回数や相談した回数を指標とするなど、ソーシャルビジネス以外に産学官連携を実施していることが分かる指標があるとよいのではないかと。測定しやすいデータや指標がないかを検討いただきたい。指標として以上の2か所が気になった。

また、計画書 P32、33 のサンプルの絵が気になる。高齢者の介護や赤ちゃんの世話をしているのが女性になっており、典型的なジェンダー表現になっている。人は固定的性別役割に対する拒否感があるので、このようなところにも配慮が必要である。将来に希望が繋がる仕組みづくりの絵は、若者だけでなく、どの世代にもあてはまるような絵が望ましい。最終的に掲載する絵は、慎重に検討いただきたい。

計画書 P20 のグラフは満足度の点数、計画書 P21 図表の数値は回答した事業者数、計画書 P19 図表の数値は回答した人数を示していると思うが、図表を見やすくするために、最終版では事業者数、人数などそれぞれの図表に単位を入れてほしい。

計画書 P17「④課題 2 生涯学習・社会教育の充実」の基本施策の2行目の「の」の位置や、同様に P15 の2行目の文字の位置など、気になる部分があるため、見た目向上や修正をお願いしたい。

委員：先日の専門部会を受けて、タイトな日程の中で、整理、計画への反映、修正作業をして頂きありがたいが、「働いて、働いて…」とならないよう、ほどほどにしてほしい。パブリックコメントについても、より回答しやすい提案の仕方もあると考えるが、「働いて…」とならないよう、気を付けていただければと考える。また、用語解説については、その言葉が使われているところのページにあるとありがたい。全体的には、この長期総合計画は、すっきりまとまっているという印象を受けた。目を通せばやるべきことの概要が把握しやすいため、努力に感謝する。

会長：パブリックコメントの際に、見やすいかたちにしてほしいとの意見があったが、率直に言えば、長期総合計画全体を細かく見る人は少ないと思う。市民が見やすい、例えば A3 見開きでポイントが分るような概要版が本来あるべき姿だと考える。市民が手に取りやすく分かりやすいもの、オンラインで気軽に見られる PDF 資料、教材として高校生にも共有しやすいもの、を検討いただきたい。

## 5. その他

### (1) 今後のスケジュールについて（予定）

資料により事務局が説明

## 6. 閉会